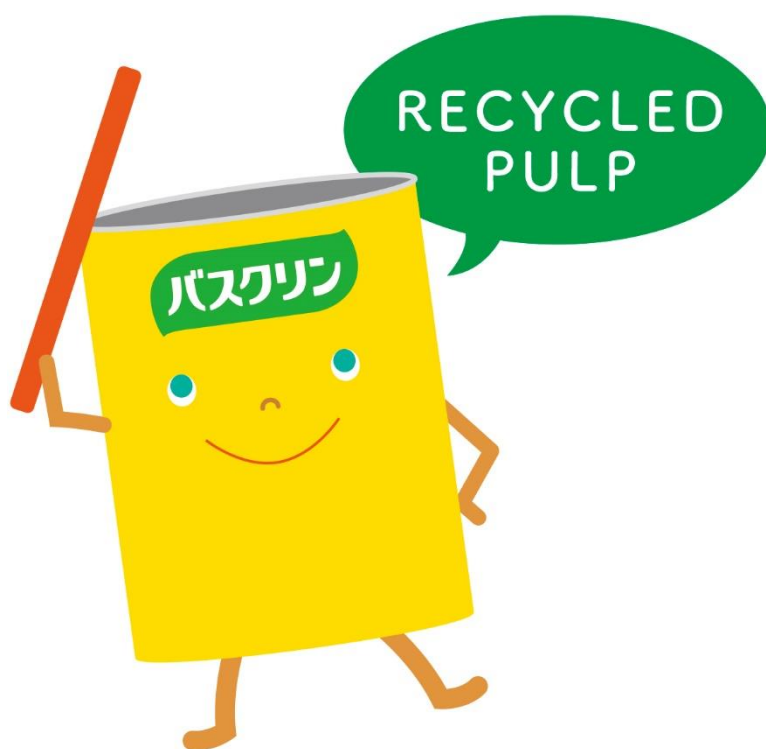


# バスクリンのエコレポート

(2022年度の活動結果)



2022年より静岡工場ではCO<sub>2</sub>フリー電力の導入を行っています

## 株式会社バスクリン

第14号

発行：2023年5月15日

## 目 次

トップメッセージ .....	P-2
1.会社概要 .....	P-3
2.対象範囲 .....	P-3
3.環境経営方針 .....	P-5
4.環境経営目標と活動実績	
4.1 2022年環境活動目標と活動実績（2022年度1月～12月） .....	P-6
4.2 3カ年環境経営目標（2023年度～2025年度） .....	P-7
5.2022年度の主要な環境経営活動計画（具体的取り組み内容） .....	P-9
6.2023年1月以降の取り組み内容 .....	P-10
7.環境関連法規制への違反、訴訟等の有無 .....	P-11
8.代表者による全体評価と見直し結果 .....	P-12
9.環境経営推進体制	
・環境組織図 .....	P-13
10.2022年度に発売された主な新製品・企画品 .....	P-13
11.社内活動のトピックス .....	P-16
12.工場での取り組み .....	P-18
13.社外での取り組み .....	P-18

## トップメッセージ

### 環境経営方針

#### <基本理念>

株式会社バスクリンは、自然との共生を原点とする企業として、地球環境・地域環境に配慮し、健やかで心地よい生活を提供するため、下記の行動指針に基づき全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。



## ECO MISSION

自然との共生それが私たち バスクリン の原点です

私たち株式会社バスクリンは、創業以来、「健康」に関わる事業を展開し、お風呂の源である「水」を大切に、「ものづくり」を行ってきました。

近年、世界では水資源の枯渇や、汚染が深刻化している地域もあり、日本でもより環境にやさしい「ものづくり」が問われています。

私たちはそのような環境課題に対応するため、

栽培した天然原料の優先使用・古紙を利用した製品開発など、

さまざまな取り組みを行っています。

限りある水資源と地球環境を守るために

今後もより一層環境への取り組みを加速させ、企業としての使命を果たしていきます。

## 1. 会社概要

(1) 事業所及び代表者氏名

事業所名 : 株式会社バスクリン

代表者氏名 : 代表取締役社長 三枚堂 正悟

(2) 所在地 : 〒102-0073

東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F

(3) 環境管理責任者氏名 : 総務部長 久保 康一

連絡先TEL : 03-3511-5811 FAX : 03-3511-5820

(4) 事業概要 : 医薬部外品(入浴剤、育毛剤他)、化粧品、雑貨品等の製造販売

(5) 事業規模 (2023年1月現在)

項目	単位	本社	静岡工場	つくば研究所	北日本支店 首都圏第一支店 首都圏第二支店	中日本支店	関西・中四国支店	九州支店	合計
従業員数	人	90	92	39	44	14	22	9	310
敷地面積	m <sup>2</sup>	950	19,175	3,127	450	145	249	113	24,210
床面積	m <sup>2</sup>	950	11,954	2,033	450	145	249	113	15,527

## 2. 対象範囲

① 認証・登録の業務

医薬部外品(入浴剤、育毛剤等)・化粧品・雑貨・製造・販売

## ②認証・登録の範囲（2023年1月現在）

本社	: 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
静岡工場	: 静岡県藤枝市谷稲葉 242-1
つくば研究所	: 茨城県つくば市東新井 29-9
北日本支店	: 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
首都圏第一支店	: 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
首都圏第二支店	: 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
中日本支店	: 愛知県名古屋市東区葵 3-22-8 ニューザックビルディング 4F
関西・中四国支店	: 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-10 中尾ロイヤルビル 4F
九州支店	: 福岡県福岡市中央区天神 4-2-20 天神幸ビル 7F

## ③環境経営活動レポートの対象期間及び発行日

対象期間：2022年1月から2022年12月

発行：2023年5月8日



### 3. 環境経営方針

## 環境経営方針

### <基本理念>

株式会社バスクリンは、自然との共生を原点とする企業として、地球環境・地域環境に配慮し、健やかで心地よい生活を提供するため、下記の行動指針に基づき全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

### <行動指針>

1. 当社の事業活動において、開発・生産、販売・物流、使用、廃棄の各段階における環境負荷の低減に資する活動を積極的に進めるため、次の項目を重点管理として取り組みます。

- 1) 環境配慮型製品の開発設計
- 2) 環境配慮型製品の販売促進
- 3) 電気・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- 4) 廃棄物の3R（減量、再使用、再利用）の推進
- 5) 節水の推進
- 6) 化学物質の削減

これらの項目について環境目標・活動計画を定め、環境経営システムを確立し、継続的な改善と汚染の防止に努めます。

2. 環境関連法規、規制及び当社が同意するその他要求事項を遵守します。

3. 環境への取組みについて、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日：2010年2月15日

改訂日：2019年1月1日

東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F

**株式会社バスクリン**

代表取締役社長 **三枚堂 正悟**

## 4. 環境経営目標と活動実績

### 4.1 2022年環境活動目標と活動実績（2022年度1月～12月）

項目 (部門)	単位	2020年度 1月～12月 実績値	2021年度 1月～12月 実績値	2022年度 1月～12月 目標値	2022年度 1月～12月 実績値	評価	達成状況コメント	
1	CO <sub>2</sub> 排出量削減 (全社) (売上原単位)	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	76.50	101.04	34.47	29.73	○	原単位で対目標114%で達成した
	CO <sub>2</sub> 参考 (実量)	kg-CO <sub>2</sub>	1,468,278	1,553,147	551,000	468,408		
	消費電力の削減 (全社) (売上原単位)	kwh/百万円	180.1	208.4	208.6	201.2	○	原単位で対目標104%で達成。
	電力参考 (実量)	kwh	2,994,615	3,203,614	3,334,620	3,170,005		
	ガソリン使用量の削減 (売上原単位)	L/百万円	4.301	3.725	4.893	4.333	○	原単位では対目標111%達成。実量では113%達成。ハイブリッドカーの導入拡大及び社員の燃費意識の向上の結果であ
	ガソリン参考 (実量)	L	71,493	71,493	78,200	68,264		
2	産業廃棄物排出量の削減（静岡工場+つくば研究所） (売上原単位)	kg/百万円	71.69	47.83	65.70	63.60	○	原単位で対目標103%達成。7年連続して目標を達成した。
	産廃参考 (実量)	t	1,191	918	1,558	1,002		
3	水使用量の削減 (静岡工場+つくば研究所) (売上原単位)	m <sup>3</sup> /百万円	0.3463	0.4136	0.4005	0.4040	×	原単位で対目標99%未達。工場での増産、及び品種切替回数増加が主な要因である。
	水使用量参考 (実量)	m <sup>3</sup>	5,756	6,358	6,400	6,358		
4	環境配慮型製品の開発設計 (つくば研究所)	-					○	年間を通して、化管法対象物質のゼロ、削減の商品が計画通り上市した。
5	販売促進物の廃棄 量低減 (本社)	千円	0				○	販売促進物数量の適正化を推進、販促物の内製化の徹底した。

購入電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力の0.433kg-CO<sub>2</sub>/kWh(2011年)を採用。

ガソリンは2.322kg-CO<sub>2</sub>/Lでの計算値を示した。

※TCR：活動全体最適の視点で仕事のあり方の本質をゼロベースで見直し、全てのコストを全社全方位で効率化する活動

購入電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力の0.433kg-CO<sub>2</sub>/kWh（2011年）を採用。

ガソリンの二酸化炭素排出係数は2.322kg-CO<sub>2</sub>/Lでの計算値を示した。

#### 4.2 3カ年環境経営目標（2023年度～2025年度）

	項目 (部門)		単位	基準年度	2023年度	2024年度	2025年度
				(2019年度)			
1	二酸化炭素排出量 削減（全社） （電力、ガソリン から算出）	原単位	kg-CO <sub>2</sub> /百万円	81.04	29.03	28.34	28.10
		基準年度比	%	—	35.8	34.9	34.7
		実量	t-CO <sub>2</sub>	1,371	481	501	532
	消費電力の削減	原単位	kwh/百万円	194.8	207.8	195.2	192.3
		基準年度比	%	—	106.7	100.2	98.7
		実量	kwh	2,773,855	3,450,000	3,450,000	3,641,000
	ガソリン使用量の 削減	原単位	L/百万円	5.136	4.639	4.470	4.225
		基準年度比	%	—	90.3	87.0	82.3
		実量	L	73,142	77,000	79,000	80,000
2	産業廃棄物 排出量の削減 （静岡工場+ つくば研究所）	原単位	k g/百万円	75.49	66.27	65.06	60.73
		基準年度比	%	—	87.8	86.2	80.4
		実量	kg	1,075,000	1,100,000	1,150,000	1,150,000
3	排水量の削減 （静岡工場+ つくば研究所）	原単位	m <sup>3</sup> /百万円	0.3521	0.3916	0.3734	0.3486
		基準年度比	%	—	111.2	106.0	99.0
		実量	m <sup>3</sup>	5,014	6,500	6,600	6,600
4	環境配慮型製品の 開発設計 （つくば研究所）		—	—	包材重量減量 化検討	包材重量減量 化検討	包材重量減量 化検討
5	環境配慮型製品の 販売促進の推進 （全社）	詰替え製品 比率	%	68	69	70	71
6	環境人材の育成 （全社）		工コ検定合格者数	27名 累計213名	20名	29名	20名

※2022年より新会計制度で売上の基準を変更した

2022年2月より静岡工場はCO<sub>2</sub>フリー電力の導入を行っている。

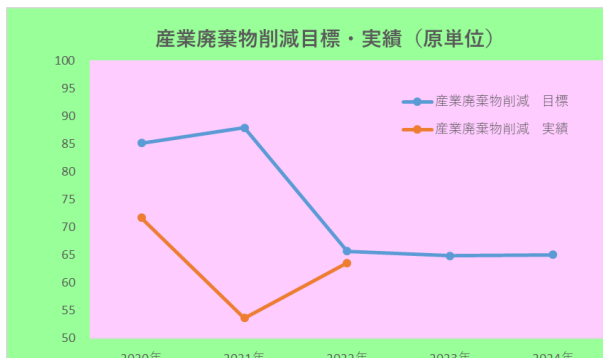
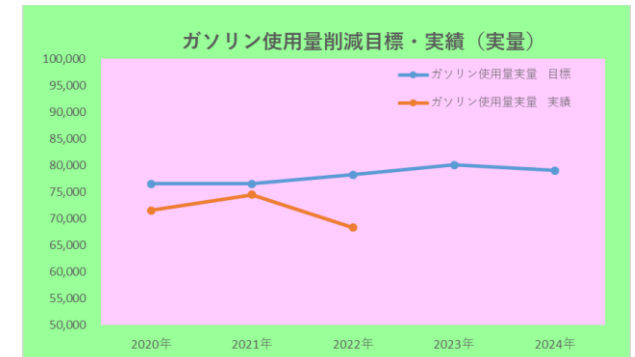
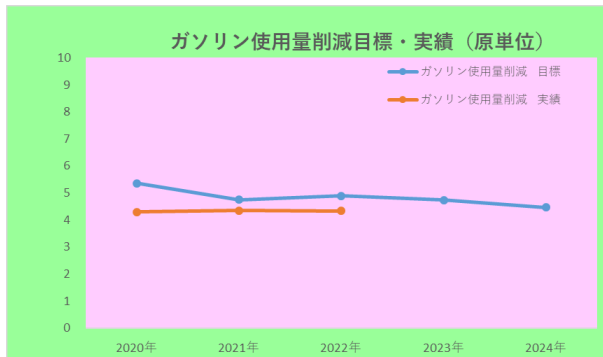
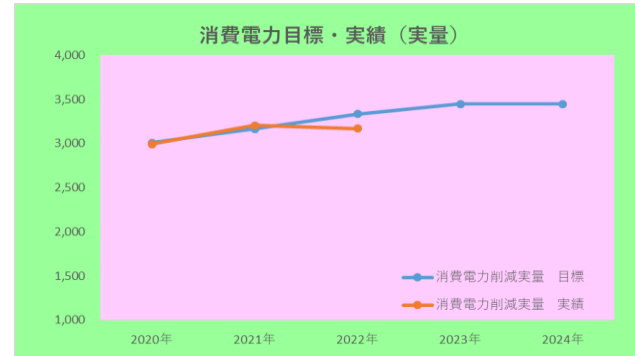
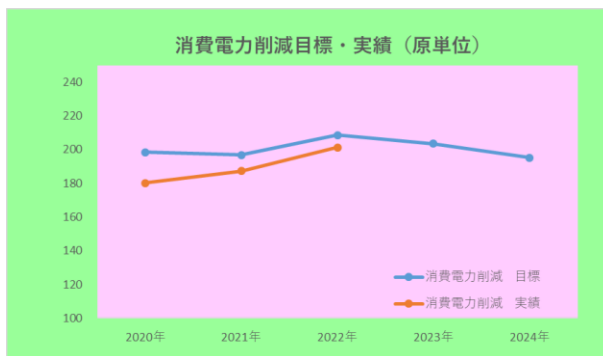
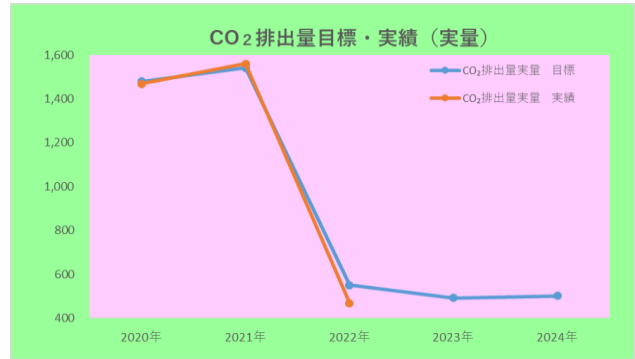
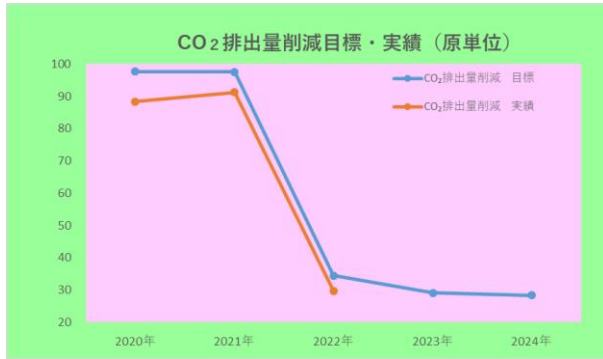
購入電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力の0.433kg-CO<sub>2</sub>/kWh（2011年）を採用。

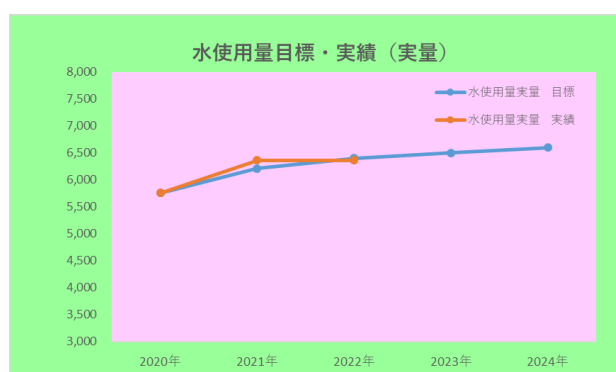
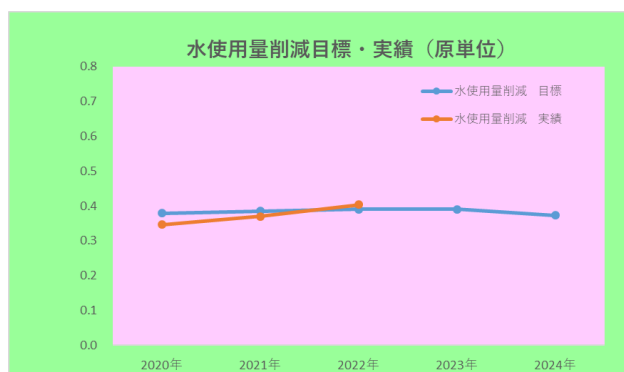
ガソリンの二酸化炭素排出係数は2.322kg-CO<sub>2</sub>/Lでの計算値を示した。





## CO<sub>2</sub> 排出量・消費電力・ガソリン使用量・産業廃棄物・水使用量グラフ





### 有価物数量推移（リサイクル）【静岡工場】

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
段ボール	128,224	114,195	93,020	97,250	117,990	127,510	128,660
紙類	3,250	4,217	3,617	3,398	1,875	2,005	3,388
プラスチック類	40,372	18,610	32,340	36,533	26,426	27,546	29,124
金属類	12,646	14,194	18,601	13,651	18,126	16,739	17,665

段ボール・紙類・プラスチック類の増加要因は生産増によるものです。

※紙類：雑誌、新聞紙、シュレッダーゴミなど

プラスチック類：ビニール袋、ストレッチフィルム、プラスチックコンテナ、パレットなど

金属類：ドラム缶、一斗缶、機械設備など



### 5. 2022 年度の主要な環境経営活動計画（具体的取り組み内容）

	環境経営目標 (部門)	2022 年度の環境経営活動の取り組み内容
1	電気使用量の削減 (全社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日中、不要時の消灯、電源 OFF</li> <li>・ 室温管理（冷房：28℃ 暖房：20℃）</li> <li>・ 週 3 回ノー残業デーの徹底</li> <li>・ 非使用時の会議室空調停止</li> <li>・ 工場構内照明（1F～6F 蛍光灯 830 基）の LED 化</li> </ul>
2	産業廃棄物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 香料切替え時の洗浄廃液の抑制</li> </ul>

	排出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分別による有価物への転換</li> <li>・フレコン袋のリユース推進 (有価買取業者との契約)</li> <li>・工場での適切な分別処理実施</li> <li>・試作規模を毎回精査</li> </ul>
3	水使用量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月一回の漏水点検の徹底</li> <li>・部品洗浄時の水使用削減</li> <li>・品目切り替え (洗浄) 作業の改善</li> <li>・節水の呼び掛け</li> <li>・入浴剤評価実験の効率化検討</li> <li>・装置・機器洗浄における水使用量の削減</li> </ul>
4	販売促進物の 廃棄量低減 (本社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・販促物作成数量の適正化</li> <li>・適宜使用の促進</li> <li>・販促物の内製化</li> </ul>

## 6. 2023年1月以降の取り組み内容

	環境経営目標 (部門)	2023年度の環境経営活動の取り組み内容
1	電気使用量の削減	<p>特に夏場の消費電力削減の取り組み強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレワークの推進</li> <li>・室温管理 (冷房:28℃ 暖房:20℃)</li> <li>・使用していない電源 OFF</li> <li>・2F 照明を LED 化 (つくば研究所)</li> <li>・週3日のノー残業デーの継続</li> <li>・昼休み時間中のエリアを区切った消灯 (本社)</li> <li>・帰宅時のパソコン電源のコンセント抜の徹底</li> <li>・エア漏れ対応の実施 (工場)</li> <li>・節電パトロールの実施 (本社)</li> </ul>
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・営業部門との連携による返品削減</li> <li>・分別による有価物への転換</li> <li>・リユースの推進</li> <li>・製造ロスの発生を少なくするための効率的な生産体制を強化</li> <li>・試作規模を毎回精査</li> </ul>

3	水使用量の削減 (静岡工場+つくば 研究所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な多面的節水行動</li> <li>・月一回の漏水点検</li> <li>・入浴剤評価実験の効率化検討</li> <li>・装置、機器洗浄における水使用量の削減</li> </ul>
4	販売促進物の廃棄量 低減(本社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末に在庫を残さないよう、営業部門への情報提供</li> <li>・事業所間の流動的な運用</li> <li>・再利用</li> </ul>
5	環境配慮型製品の販 売促進(本社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮した詰め替え商品の販売促進を推進</li> <li>・商談における啓発</li> <li>・使用促進</li> </ul>
6	グリーン購入の推進 (全社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境対応マークの付いた文房具の購入を推進</li> </ul>
7	化学物質の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化管法対象物質、主要化学物質の月次購入管理</li> <li>・有害廃液の適正な回収</li> <li>・有害試薬の削減</li> <li>・製剤口スの削減</li> </ul>
8	環境配慮型製品の開 発設計 (つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境負荷を考慮した処方設計と環境負荷値の計測</li> <li>・処方決定での化管法対象原料の確認・承認</li> <li>・化管法対象物質減量処方の検討</li> <li>・包材重量減量化検討</li> </ul>

## 7. 環境関連法規制への違反、訴訟等の有無

	該当する環境関連法規制	本 社	静 岡	つ く ば	確認 は○	遵守 評価
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法) <ul style="list-style-type: none"> <li>・収集運搬・処分先との委託契約の締結及び許可証</li> <li>・マニフェスト伝票の発行及び返却期限管理</li> <li>・産業廃棄物交付票の状況報告(事業所ごと)</li> </ul>	●	●	●	○	違反 無し
2	毒物及び劇物取締法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・毒劇物法定表示と毒物保管量管理</li> </ul>		●	●	○	違反 無し

3	消防法 ・危険物の保管管理（届出指定数量以下）		●	●	○	違反 無し
4	容器包装リサイクル法 ・特定事業者としての帳簿の備えと5年間保管 ・主務大臣への定期報告 ・リサイクル費用の支払い	●			○	違反 無し

●は対象事業所

弊社に関わる環境関連法規等の遵守確認の結果、違反はありませんでした。

また、過去3年間にわたり関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

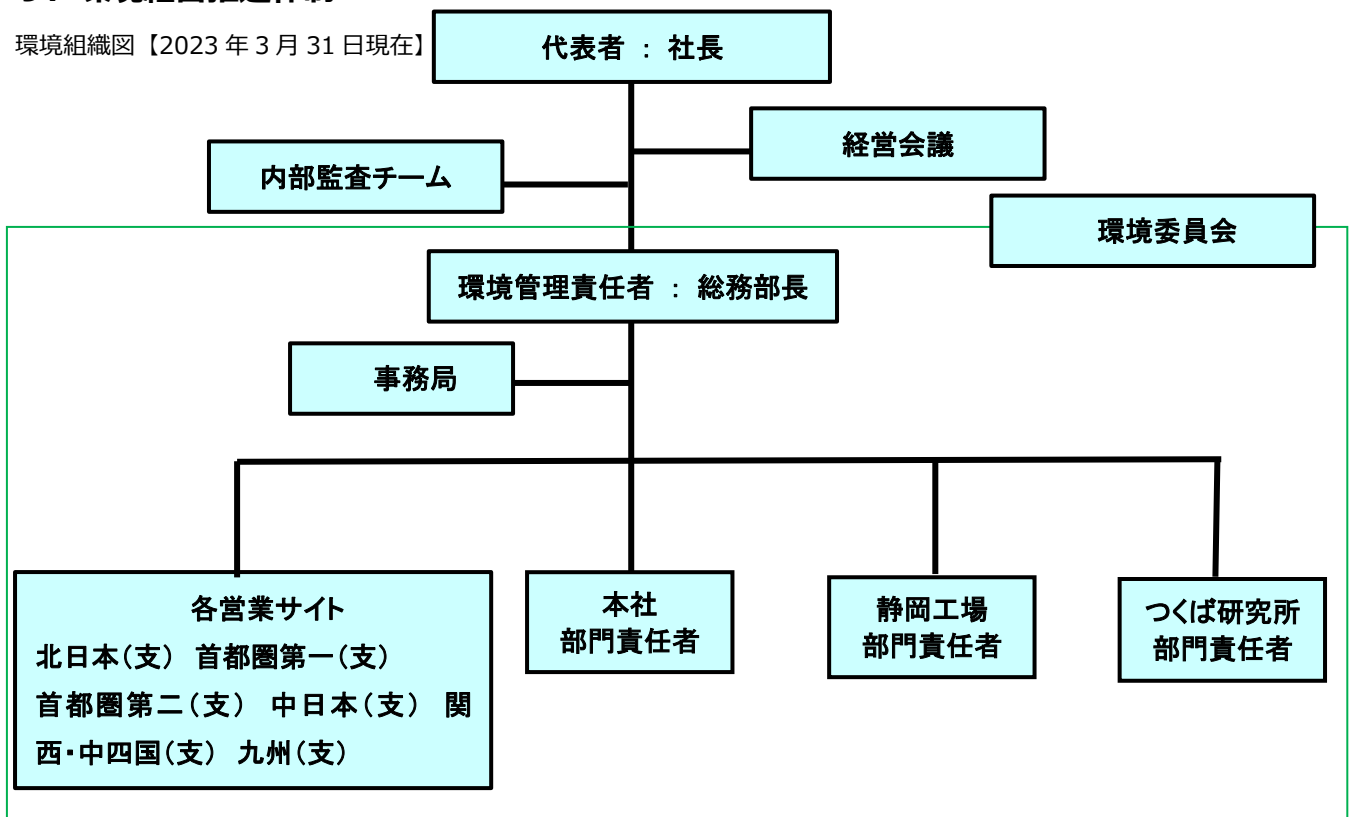
## 8. 代表者による全体評価と見直し結果

代表者による全体評価と見直しを2023年3月7日に実施し、下表の結果となりました。

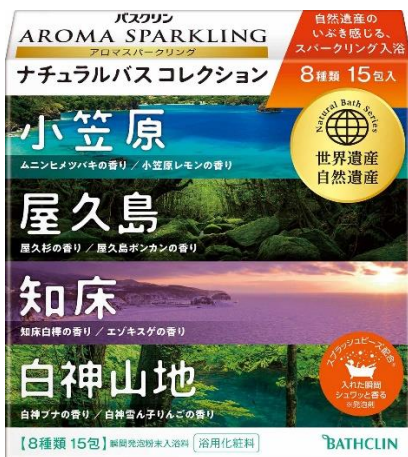
	項目	見直しの有無	評価コメント
1	環境経営方針の見直し	無	2019年度改訂した環境経営方針の浸透を一層強化する。
2	環境経営目標	無	一昨年、全社計のCO <sub>2</sub> 、電気、ガソリン、産廃の数値管理を原単位管理に移行したが、今期より実数管理に戻すこと。
3	環境経営活動計画	無	継続的に推進すること。
4	環境経営システム的な指示	無	内部監査員の養成を行うこと。 「eco検定」の合格者数は全社員を目標とすること。 全社員に対して、環境情報の周知徹底を行うこと 各イベントを遅滞なくスケジュール通り進めること
5	全体評価コメント		環境経営方針の主旨を理解し、適切な目標の設定と対策の実施が図られている。 エコアクション21のガイドラインが変更されたので新ガイドラインにて対応すること。 年間を通じて、全社的活動を継続する。

## 9. 環境経営推進体制

環境組織図【2023年3月31日現在】



## 10. 2022年度に発売された主な新製品・企画品



バスクリン アロマスパークリング  
ナチュラルバス コレクション



バスクリン  
アロマスパークリング  
リラクセスレクト



バスクリン  
アロマスパークリング  
リフレッシュセレクト



バスクリン 極みの湯  
心満たされる花の香り



バスクリン 極みの湯  
気持ち落ち着く森の香り



日本の名湯  
透みわたる豊潤



薬用ソフレ  
濃厚しっとり入浴液  
リラックスサボンの香り



ソフレ マイルド・ミー  
ミルク入浴液  
コットンミルクの香り



きき湯とアヒル隊長  
大冒険セット



【企画品】  
バスクリン世界紀行  
イタリア青の洞窟



【企画品】  
バスクリンクール  
すっきりラムネの香り



【企画品】  
きき湯ファインヒート  
呪術廻戦デザイン  
スマートモデル



【企画品】  
きき湯ファインヒート  
呪術廻戦デザイン  
グレープフルーツの香り



【企画品】  
きき湯ファインヒート  
呪術廻戦デザイン  
リセットナイト



【企画品】  
きき湯ファインヒート  
呪術廻戦デザイン  
レモングラスの香り

©芥見下々／集英社・呪術廻戦製作委員会



## 1 1.社内活動のトピックス

### 「eco 検定」の取り組み

「eco検定」の正社員全員合格を目標として活動しています。

eco検定 合格者推移

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年
18	45	57	45	7	5	5	9	18	20	13	30	19

### 水を育む、森を守る – 「バスクリンの森」プロジェクト



「水を育む、森を守る」をコンセプトにした「バスクリンの森」プロジェクトを行っています。

当社の環境保全への取り組みとして、入浴行為における最も重要な「水」資源の保全を目的として、「森林<sup>かん</sup>涵養機能（水の浄化等）」を高めるための森林整備活動を行っている企業の活動を支援しています。現在は、東京都檜原村にある森の整備事業を支援しています。



## 事業所周辺の敷地・道路の清掃活動（つくば研究所）



地域貢献活動の一環として、毎週月曜日に事業所の回りの歩道・道路の清掃を行っています。



## PET ボトルキャップの回収



CSR 活動の一環として PET ボトルキャップを分別回収する運動に取り組んでいます。回収された PET ボトルキャップは NPO 法人「エコキャップ推進協会」を通じ、リサイクルの過程で、障害者の方々の雇用を創出し、リサイクル業者に購入をしていただくことにより、リサイクルによる CO<sub>2</sub> の削減、売却益で発展途上国の医療支援に寄与しています。

CO<sub>2</sub>の削減      雇用創出      再資源化

	キャップ個数	CO <sub>2</sub> 削減量
2022年度	9,460個	69.30kg
累計	144,221個	1,063.50kg

## 1 2. 工場での取り組み

### 工場周辺清掃



蛍光灯照明 ⇒ LED 照明

倉庫照明 ⇒ 倉庫 LED 照明



## 1 3. 社外での取り組み

### 小中学校交流会への参加

首都圏の小中学校において『入浴剤研究者の職業体験』の講義を行いました。

講義の中では「水」の大切さ等話をしています。

講義の最後にはオリジナルの入浴剤を製作しました。



■環境活動レポートに関するお問い合わせ先

株式会社バスクリン 総務部CSR推進グループ

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F

TEL: 03-3511-5811 FAX: 03-3511-5820

次回環境活動レポート発行予定：2024年4月 第15号